

# 三期目の佐原市政

地方政治  
クリエイト  
伊藤 秀昭

市長選挙が終わり  
ました。過去最低の  
投票率ではあった  
が、これからの4年  
間、豊橋市そして東  
三河の政治は佐原光  
一氏に託されたこと  
は紛れもない事実。  
開票が行われた13  
日夜、当選報告会で  
鈴木伊能勢後援会長  
は「選挙戦は終わら  
りました。戦いには勝  
ちました。今日は豊  
橋の、東三河の明日  
に向かって新しい出  
発にしていかなけれ  
ばなりません」と力  
強くあいさつしまし  
た。

三期目の佐原市政  
が担う未来(あす)  
の課題は何か。

福祉サービスの需要  
が高まり、社会保障  
財政のバランスが崩  
れるとも指摘され、  
「2025年問題」と  
してクローズアップ  
されてきました。が、  
いよいよ現実味を帯  
びてきています。

その2025年ま  
であと9年。すなわ  
ち佐原市政三期目の

が突きつけられてい  
ます。

■地域包括ケア  
病気になるっても介  
護が必要になっても  
住み慣れた土地で暮  
らし続けられるよう  
に、国は医療や介護、  
予防、生活支援、住  
まいを一体的に提供  
する「地域包括ケア  
システム」の構築を

厚労省が7月16日  
に発表した「在宅医  
療」のデータでは豊  
橋市の在宅死亡率  
(14年度)は10・9  
%、豊橋市の一般診  
療所256カ所のうち  
在宅診療支援診療  
所は21カ所8%、看  
取(みと)り実施診  
療所は7カ所3%に  
とどまっています。

モデル」をいち早く  
築くべきです。

■市民協働の試金  
すでに、17年度ま  
でに訪問介護・通所  
介護については市町  
村が地域の実情に応  
じた取り組みができ  
る介護保険制度の地  
域支援事業へ移行す  
ることになってお

域の自主性や主体性  
に基づき、地域の特  
性に応じて作り上げ  
ていくことが必要で  
あり、「地域の力」  
が再び問われていま  
す。

また地域の福祉ニ  
ーズに対応した多世  
代交流・多機能型福  
祉の小さな拠点の整  
備も進めなければな  
りません。全ての人  
が住みなれた地域で  
安心して暮らし続け  
られる地域づくりを

目指して、福祉サー  
ビスや人材確保も大  
きな課題です。

まさに、システム  
の構築は「21世紀  
型のコミュニティ  
の再生」そのもので  
す。

「ともに生き、と  
もに考え、ともにつ  
くる」という佐原市  
長の市民協働のキ  
ャッチフレーズは  
まさに、この豊橋  
モデル構築が試金  
石です。

## 築け！地域包括ケア豊橋モデル

これからの4年間  
は、その確かな助走  
を開始しなければな  
りません。しかも2  
025年問題は単年  
で終わる話ではあり  
ません。豊橋市と東  
三河を生き生きとし  
た「幸齢」社会にし  
ていくのか、どうか。  
佐原市長には「待っ  
たなし」の取り組み

推進しています。

2025年には全  
国にくまなく広げる  
目標を掲げていま  
す。

5割以上のお年寄  
りが自宅での最期を  
望んでいることを踏  
まえると、この方向  
性は必然です。しか  
し、その実現は容易  
ではありません。

かつて豊橋市は2  
000年からの「介  
護保険制度」導入を  
前に、高齢者保健福  
祉計画に沿ってハー  
ド・ソフト両面から  
きめ細かく取り組ん  
で、東三河の介護保  
険を引っ張ってきた  
ように、東三河のリ  
ーダー都市として

地域包括ケア豊橋  
モデルについては、地  
域包括ケアアシス  
テムについては、地



三選を決めた佐原氏